



バックナンバーはこちらから

議会だより

秋の大祭 どぶろく祭始まる!!

9月25日(金)・26日(土) 平瀬八幡神社のどぶろく祭が開催されました。両日共に大勢の方がどぶろくの振る舞いに訪れ、本年初のどぶろくを楽しんでおられました。これから木谷、荻町、鳩谷、飯島各神社で開催されるどぶろく祭。白川村の秋の訪れを感じる一大行事が始まりました。



目次 contents

議決結果のツボを解く	2
令和7年度 決算認定のツボを解く	3
総務産業常任委員会審査報告	4
世界遺産保存対策特別委員会審査報告	4
議会改革特別委員会審査報告	4
活動報告	5

一般質問	6
わたしたちの学園自慢!!!	12
白川村議会出張意見交換会の募集	12
議会傍聴案内(一般質問通告)	12
編集後記	12

議会広報

第3回議会定例会は令和8年9月9日(水)から9月17日(木)の会期で開催し、決算認定・補正予算について慎重審議し、原案の通り可決しました。

議決結果のツボを解く

◆第3回議会定例会◆

◎決算に基づく財政健全化判断比率及び資金収支比率の報告について (詳細は3ページ決算のツボ)

実質赤字比率は早期健全化基準に基づき良好であると判断される。

実質赤字比率：一般会計等における実質的な赤字額が、自治体の標準的な財政規模に対してどのような割合を示す指標です。

実質公債費率は、6.1%であり、早期健全化基準に比較して良好であると判断される。

実質公債費率は、標準的な収入に対して公債費(借金の返済額)の負担がどの位の割合を占めているかを示したものです。この数値が18%を超えると、「イエローカード」に相当します。この基準を超えると、地方債(新たな借金)を発行する際に国、県の許可が必要な「許可団体」となります。

◎飯島観光開発株式会社の経営状況の報告について

営業の概要：令和7年度の営業日数は360日でした。その間の純売上高は189,458,817円で前年度比、104.5%でした。

◎大白川温泉観光株式会社の経営状況の報告について

温泉事業：R7年度年間入浴客は、28,110名で前年比▲1,547名でした。

道の駅事業：R6年度に続きR7年度も道の駅は冬季休業しました。年間売上額は8,982,000円で前年比▲877,000円でした。

◎一般財団法人白川村緑地資源開発公社の経営状況の報告について

入園者数は、前年比+10.2%の103,530人となりました。年間開園日数は349日でした。R7年度は、10月からの入園料の改定等により、事業収入がR6年度より13,030,981円増加し367,296円の黒字となりました。

◎一般財団法人世界遺産白川郷合掌造り保存財団の経営状況の報告について

令和7年度は、6月から9月末までせせらぎ公園駐車場の舗装改良工事を行いました。10月より普通車1,000円から2,000円に、大型車は、3,000円から10,000円に改定しました。

3駐車場の合計利用台数は普通車227,246台、大型車は28,362台と過去最高となり利用料総収入は5億3,057万円となりました。

◎人権擁護委員の推薦について意見を求めることについて

人権擁護委員として大塚恭子さん(白川村大字長瀬)を推薦同意しました。

◎白川村教育委員会の委員の任命につき同意を求めることについて

白川村教育委員会委員として森崎雅樹さん(白川村鳩谷)を任命同意しました。

◎歳入補正事業

歳入歳出予算総額71億174万円に対し、2億8,887万円の増額補正を行い歳入歳出予算総額それぞれ73億9,061万円となりました。歳入の主なものとして村税既定額7億4,039万円に対し2,184万円増額の補正を行い合計7億623万円となり、繰入金既定額16億7,034万円に対し6,909万円の増額補正を行い合計17億3,944万円となりました。

◎歳出補正事業

しらみずの湯施設管理経費に1,500万円の補正を行いました。

林業用施設災害復旧費(牛首林道)に1,100万円の補正を行いました。



令和7年度 決算認定のツボを解く

1. 歳入と歳出の全体像

令和7年度の一般会計決算は、歳入が74億277万円（前年度比31.4%増）、歳出が64億9,646万円（前年度比19.6%増）となりました。実質収支は翌年度へ繰り越す財源（6億7,694万円）を除いた2億2,936万円の黒字となりました。

歳入（74億277万円）

歳入の決算のうち、最も大きな財源は、地方交付税で歳入全体の20.3%を占めており、村税は10.4%を占めています。村民税は、個人・法人割共に前年対比24.1%増加しましたが、大規模を含めた償却資産税が減少しています。また、ふるさと納税は納税ポイント還元廃止の影響を受け、「一般ふるさと納税」は前年比約1億程度減少しています。諸収入として、東海北陸自動車道4車線化工事に伴う残土処理に係る「高速道路対策事業受託事業費」が16億941万と歳入全体の24%を占めています。

歳出（64億9,646万円）

歳出については、人件費が、前年度比1.3%減の4億9,015万円。扶助費の新規事業として、物価高対応子育て応援手当金支給事業478万円、高校生通学費等助成事業344万円。公債費は、前年度対比4.9%増の4億2,735万円となり、義務的経費の合計は、前年度比2.5%増の10億707万円でした。維持補修費の主なものは除雪経費になりますが、積雪が少なかったこともあり2億2,952万円の減少となりました。普通建設事業については、東海北陸自動車道の4車線の残土処理など前年度比で190.5%増の19億2,735万円でした。

2. 特別会計・基金の動き

特別会計については、国民健康保険や後期高齢者医療において、国の新たな子ども・子育て支援制度の創設に伴い、関連システムの改修費用が増加しましたが、医療費がサービス費の減少により安定した事業運営が進められています。介護保険は、介護サービス費が減少するなど安定した財政運営が図られています。温泉開発会計では、大白川温泉の源泉及び送湯管の施設整備に専門的な調査を進め、安定した湯量の確保が図られ、修繕工事の抑制に繋がっています。

基金の状況

令和7年度は、積立額7億程度を積み増しを行いました。新庁舎建設や企業誘致に係る事業費等として7.6億余りを取崩しがなされ、年度末残高が71億円となりました。

未納金の収納の状況

村税や後期高齢者医療においては、県税や関係各課との連携により減少しましたが、上下水道料では、新たな要因により増加しています。

3. 財政状況を表す3つの指標

指 標	白川村の数値	指標の見方と評価
実質公債費比率 (借金返済の負担度)	6.1% (前年比 1.1Pt増)	数値が低いほど健全です。18%を超えると起債の発行の県知事許可が必要。25%を超えると一部起債発行が制限。県内町村平均 (R6) は4.7%。
経常収支比率 (財政のしなやかさ)	68.8% (前年比 9.1%改善)	比率が高いほど財政構造の硬直化が進んでいます。財政構造の弾力性を判断するための指標。毎年度経常的に収入される財源 (村税、普通交付税等) が、毎年度経常的に支出される経費 (人件費等) に充当された割合です。県内町村平均 (R6) は90.2%。
財政力指数 (自立度の高さ)	0.307pt (0.08pt減)	地方公共団体の財政力を示す指数。指数が低いほど自主財源の割合が少なく国への依存度が高い。この指数が1.00を超えると自主的に財政運営ができることを示し、普通交付税をうけない「不交付団体」となります。県内町村平均 (R6) は0.55pt。

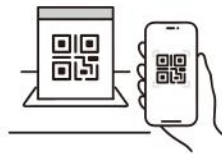
令和8年 第5回・第6回

総務産業 常任委員会 審査報告

委員長 大田 忠広

Q 荻町城跡展望台キャッシュレス 寄附収受の仕組み構築

A 村の魅力に触れ「応援したい」と考える観光客の気持ちを寄附として受け止める仕組みが村内に乏しい。特にキャッシュレス決済になった層からの寄附を取りこぼしている状況にあることから、まずは荻町城跡展望台にキャッシュレス寄附の仕組みを構築します。



○令和8年9月1日(火) 第5回 委員会審査が行われました。

Q 大白川温泉しらみずの湯経営状況報告及び 今後の対策支援について

A 東海北陸道全線開通やコロナ禍、県道白山公園線の通行止め等による入浴者数が減少。あるいは施設の老朽化によるところもあり、経営状況の悪化が続いています。村としても地域住民の健康と暮らしを支え、災害時における地域インフラとしても重要な施設でもあることから、「施設の安定的な運営」「株主資本を取り戻す」ことを目的として今後3年間の支援を行っていきます。

Q 愛知慈恵会（さくら山荘）の経営状況等

A 村内唯一の特別養護老人ホーム「さくら山荘」は、村民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるために欠かせない施設です。一方、人材確保や物価高騰、施設の老朽化により、運営は厳しさを増しています。村は今年度、国の交付金を活用し、光熱費や食材料費の高騰に対し300万円を支援する予定です。今後は法人の経営改善を確認しながら、職員の住居費、大規模修繕、村有施設「しゃくなげ荘」の運営委託料など、村内の介護サービスを安定して維持するための支援を検討します。

○令和8年9月15日(火) 第6回 委員会審査が行われました。

Q 第2次総合戦略（後期）の 効果検証について



A 「白川村第2次総合戦略（後期）～いつまでも住み続けたい村づくりマスタープラン～」に掲げられた目標の達成度を測るため、計画期間（令和7年度～令和11年度）の1年目に実施された事業について、令和7年度の事業結果に基づき評価・検証の報告がありました。

令和8年 第2回

世界遺産保存 対策特別委員会 審査報告

委員長 坂本 正代

○令和8年9月9日(水) 世界遺産保存対策特別委員会で審査した案件の報告をします。

Q 旧花植家住宅の活用方針について

A 本年4月より教育委員会事務局の直接管理運営となった旧花植家住宅の今後の活用方針について審議いたしました。

令和8年 第2回

議会改革 特別委員会 審査報告

委員長 宮部 俊典

○令和8年9月15日(火) に開催された議会改革特別委員会の審査した案件を報告いたします。

Q 議員定数について

A 継続審査案件である白川村議会議員定数について前回委員会に引き続き審査しました。

7月活動報告

日にち	議会議員	正副議長 (議長: 森崎敏克 副議長: 宮部俊典)	総務産業常任委員会委員長 (大田忠広)	監査委員 (川田一浩)
1日(水)		白川村国保運営協議会(議長)		
3日(金)		愛知慈恵会懇談 (議長・総務産業委員長)	愛知慈恵会懇談	
6日(月)		白山山岳遭難対策協議会 (副議長)		
9日(木)		青森県十和田市議会視察 (副議長)		
13日(月)		渡辺酒造イベント(議長)		
17日(金)		飛騨地域議長会議(正副議長)		
21日(火)				例月出納検査
22日(水)	第4回議会臨時会高山土木・飛騨農林 事務所・飛騨森林管理所要望活動			
23日(木)		東海北陸自動車道 令和8年度整備促進大会(議長)		



●青森県十和田市議会視察受入(7月9日)



●飛騨農林事務所要望活動(7月22日)



●飛騨農林事務所要望



●飛騨森林管理所要望活動(7月22日)



●飛騨森林管理所要望

8月活動報告

日にち	議会議員	正副議長 (議長: 森崎敏克 副議長: 宮部俊典)	総務産業常任委員会委員長 (大田忠広)	監査委員 (川田一浩)
3日(月)		リニア中央新幹線建設促進 岐阜早期成同盟会総会(議長)		
7日(金)			令和8年総合戦略効果検証 委員会	
10日(月)		国道304号道路整備促進期成 同盟会総会(議長)	国道304号道路整備促進期成 同盟会総会	
12日(水)	第2回新庁舎建設特別委員会	新庁舎建設検討委員会	新庁舎建設検討委員会	
14日(金)	二十歳を祝う会			
20日(木)				決算審査 例月出納検査
21日(金)				決算審査
23日(日)		飛騨美濃合併150周年 記念式典(議長)		
24日(月)	定例議員懇談会			
25日(火)		岐阜県町村議会議長会 理事会評議会(議長)		決算審査
26日(水)				決算審査
27日(木)		三重県議会常任委員会 行政視察(副議長)		



●高山土木事務所要望活動(7月22日)



●三重県議会行政視察受入(8月27日)

9月活動報告

日にち	議会議員	正副議長 (議長: 森崎敏克 副議長: 宮部俊典)	総務産業常任委員会委員長 (大田忠広)	監査委員 (川田一浩)
1日(火)	第5回総務産業常任委員会 第3回議会運営委員会			
9日(水)	第3回議会定例会(初日) 第1回決算特別委員会 第2回世界遺産保存対策特別委員会 第3回広報委員会			
11日(金)	敬老会			
15日(火)	第6回総務産業常任委員会・ 第2回決算特別委員会			
17日(木)	第3回議会定例会(最終日)			
24日(木)				例月出納検査

定例会 一般 質問

村政を問う



成原村長の今後の進退について

大田 貢 議員



Q

来春統一選挙に5期目に出馬しない意向を固め近く表明と掲載されましたが、村長の考えをお聞かせ下さい。

A

掲載されましたとおり、来年の4月26日の任期をもって退任させていただきます。白川村が単独村として存続するための在り方や、私に代わる後継者創りにも配慮してきた処でもあります。そうした中、ここでしっかりと次の世代に村創りを託し、単独村として活性化が図られるように、更なる新しい風を吹かせることが必要だと考えています。新しい発想で新しい村創りをしっかり行って頂ける後継者に託したい、そんな気持ちでおりますのでご理解を頂きたいと思います。新しく村政を継がれる方には、現代にマッチした「職員との良好な関係」を構築した上で、豊かな村創りのために「不可能を可能にする」といった強い想い、信念を持って村創りをしていただきたいと願っています。

(成原村長)



世界遺産白川郷地内への渋滞対策と白川橋歩道整備について

Q

国による渋滞対策の報道があったが、村としての対応は？

A

国・県及びネクスコ等で組織される「岐阜県道路交通渋滞対策推進協議会」で検討が進められており、高山国道事務所からの申し出を受けて調査が行われています。村からは「新たな人手や手間が生じないこと」「到着順で利用できること」「早期の誘導」を条件として要望を伝えています。今後はFM-VICSを活用した満空情報の提供などの実証実験が予定されていますが、村としても引き続き実効性のある渋滞対策に努めます。

(古田観光振興課長)

Q

荻町交差点の信号機の運用改善について

A

現在は歩車分離式で運用されていますが、車両の誤認を防ぐため右折矢印信号の設置を要望しています。予算の関係で未施工ですが、より安価な「時差式」の表記追加なども含め、引き続き警察等関係機関へ要望してまいります。

(古田観光振興課長)

Q

冬期における白川橋の安全対策や歩道整備の進捗は？

A

岐阜県へ歩道設置を要望していますが、早期施工は難しい状況です。冬期に外国人観光客がキャリーケースを引きながら通行する危険を減らすため、近隣事業者と連携し、比較的安全な白荻橋への誘導やバスターミナルから宿泊施設までのわかりやすい表示・改善に取り組んでいきます。

(古田観光振興課長)

Q

渋滞時の生活路線への車両侵入防止対策について

A

駐車料金改定による財源を活用し、飯島・鳩谷・戸島等の生活路線への警備員配置を継続して実施し、住民生活の安全確保に努めます。

(古田観光振興課長)

議員のひと言 「地域の安全は地域で守る」

せせらぎ駐車場大型バスの 予約制に伴う管理運営について

川田 一浩 議員



Q

予約制の主旨を理解して来訪されればよいが、ルール無視の来訪者も予想されます。情報発信や不測の事態への具体的な手立て、現時点での課題は？

A

今回の予約制導入は「駐車場確保後にツアー化を進めてもらう」受入方針への転換をご理解いただくよう進めています。プレスリリースや県観光連盟メーリングリストを通じた旅行業者（1500件以上）への事前周知、専用サイトでの禁止行為明記、悪質行為には予約制限・アカウント停止等を実施したい。緊急時は専用コールセンターで即座に対応し、リハーサル等で万全を期します。（古田観光振興課長）

Q

今後の利用料金の事前決済導入の考えや、導入しない場合の代替案について伺いたい。



A

事前決済を済ませた車両が精算機を通過できる仕組みの構築や決済情報のセキュリティ管理リスク、キャンセル相談や返金業務等事務負担増の課題があるため、現時点では事前決済を見送り、まずは運用の状況を見守っていききたいと思います。

（古田観光振興課長）

Q

「村民の暮らしと観光を両立する取組」は大いに理解できますが、荻町には観光を生業とする方も多し。普通車や定期観光バスを含め、年間・日々の総量数計画の考え方はどうか？また「量から質」への向上支援策は？

A

受入総数は観光基本計画の「1日約5,000人」を目安と考えています。「量から質」への向上は、6次産業化による村内商品の充実等で観光消費額を上げていきたいと考えています。

（古田観光振興課長）

Q

何人かの荻町住民の方に予約制について意見を伺いました。「来すぎており、荻町集落内がパンパンな状況。あまり考えていない事業者もいるので広報をしてほしい。」「入込みの平準化を望む声」「混雑は年間10日程度ではないか、全てをコントロールするのはどうなのか？」といった不安視する意見や少しでも減って平穏な暮らしができればといった意見もあった。営業者の中では、「やってみて問題が出れば改善してほしい」との要望もありました。

A

トラブル対処も含め運用を進めたいと思います。3年前から実施している村民観光満足度調査の回答者116人のうち40%が荻町区民で、景観への懸念56%、治安悪化懸念61%、観光客受入については「増やすべき7%」「現状維持50%」「減らすべき43%」、マナー違反迷惑95%という結果で荻町区民からも（現状に対する）不満の声が多いことがわかります。渋滞、ごみ捨て等・マナー対策解決には総量規制が第一の解決策と考えられ、声には出せない意見がアンケートに寄せられた形となりました。

（岩本副村長）

Q

今後、問題や課題が生じた場合、改善に向けて関係者で話し合っていければと思います。観光満足度調査の結果などを広く情報共有していただきたい。

議員のひと言 「やってみて、結果が出ねば、人は動かず。」

災害時における避難所の整備と運営について

坂本 正代 議員



Q

本年猛暑の中での、熊本地震や各地における大雨災害に触れ、村の避難所における暑さ寒さ等の備えは整っているのか？地域ごとのマニュアルや定期的な話し合いは行っているか？避難所における整備と運営について伺います。

A

村の指定避難所は25施設・広域避難場所の4施設を指定しています。指定避難所25施設のうち現在11施設にエアコンが設置されており、今年度中に白川郷学園体育館及び飯島集落センターの2施設に設置予定としており、避難所13施設においてエアコンによる温度管理が可能となります。既存の設備等も活用するとともに物資の配布により初期対応を行う想定としております。非常用発電機についても、備蓄する小型発電機に加えて「白川村建設懇和会」様との災害時協定に基づき、各社の発電機をお借りする連携体制も含め整備・運用を検討してまいります。啓発活動や各種支援を通じ、全地区において地域ぐるみの防災活動・話し合いが活発化するよう積極的に働きかけを行ってまいります。

(成原総務課長)

A

大規模災害時には、迅速な初動体制をとれるように、地域に居住する職員（主査又は課長補佐）を「避難所開設担当者」として任命する事を定めております。支援物資が届くまでを想定し、村民には1週間分以上の食料・飲料水及び生活必需品の備蓄に努めて頂き、村の公益備蓄は、家庭備蓄



を利用出来ない方への急場の公助として対応する考えであります。また避難所生活に必要な生活用品の備蓄も、女性等の視点を踏まえ整備しております。避難所の管理運営において、避難者による自主運営を考えますと、今後防災知識を持つ女性リーダーが関わる事が重要であり、避難所生活の安心な生活環境づくりに必要性が高まっています。

(吉實村民課長)

災害時におけるドローンの活用について

Q

大規模災害が相次ぐ中、2次被害を防ぎ、現在多様にドローンが用いられております。災害時等におけるドローンの活用について村の考えをお聞きます。

A

本村におきまして、迅速な被害状況の把握や安全な救援活動を展開する上で、極めて有効な手段として認識しており、令和4年度に飛騨市古川町の(株)ドローンコンシェルジュと「無人航空機を使用した行政業務支援に関する協定」を締結し、防災訓練においても大型ドローンを用いた実証実験も行っております。専門機関や民間業者との連携による支援体制は、職員の負担軽減と安全を確保しつつ村民の命と暮らしを守る非常に大きな備えであり、いざという時にドローンを迅速かつ効果的に活用できるように、万全の体制を整備してまいります。

(成原総務課長)



議員のひと言 「災害は、忘れた頃にやって来る。備えあれば患いなし！」

金利上昇・物価高の中で、 村民所得と暮らしを守る 白川村の「稼ぐ力」について

平田 律代 議員



Q

白川村の第二次総合戦略（後期）には「村内資源を活用し事業者の稼ぐ力を高める」「地域経済循環率の向上、村民の所得向上」が明確に掲げられています。そして本村の経済は順調に推移しているとの報告を受け安堵しています。しかし現在我が国では、物価やエネルギー価格の上昇に加え、金利が上昇する局面となっており、日々の生活費の増加に不安を感じておられる村民も少なくないと思います。金利上昇や物価高による村内事業所に生じる影響についての認識をお聞かせください。



平田撮影

A

商工会の方では、現在のところ村内事業所からの相談は受けておりませんが、購買力の低下や実質利益が減ることなどで資金繰りやローンの返済などに影響が出るのが考えられます。

（古田観光振興課長）

Q

第二次総合戦略(後期)に掲げる「村民の所得向上」については、どの程度進捗していますか？

A

初年度の達成率は88.8%となっており、順調に推移しております。（古田観光課長）

A

白川村は過去10年間にわたり一人当たり所得が県内トップを堅持しております。村全体として「稼ぐ力」を高い水準で維持し続けてきた明確な実績と評価しております。（成原総務課長）

Q

住宅、子育て、事業継承、起業、設備投資、生活サービス等について既存制度の見直しや新たな支援策などがありますか？



平田撮影

A

単独事業としては他の自治体に比べ非常に手厚く支援させていただいておりますが、今後も必要なものについては議会のご提案をいただき支援につなげたいと思っております。（古田観光課長）

Q

「稼ぐ力の向上」は持続可能な村を作るための大切な政策です。今後どのような施策を考えておられますか。

A

白川郷ブランドの育成、南部地域への観光客誘致により観光消費を伸ばしたいと考えています。（古田観光課長）

Q

村内では大きく利益をあげておられる事業者がおられます。他の自治体の企業のように、寄付などによる地域貢献の意識を高めて頂き、利益を分配し循環させられる環境を構築できないものかと考えます。お考えをお聞かせください。

A

小さな条件不利自治体での所得向上は難しいものですが、「村ごと六次産業化」が少しずつではありますが実現しようとしています。一次産業から六次産業までの連携による所得の配分や、過去には地産地消を推奨してきましたが、現在は地産地消であり、地元で消費されるものを地元で生産する方向転換です。産業間の連携による所得の向上は大きく図られるものと考え大いに推奨し地域の経済循環に繋げられるものと考えております。そして地域が全体に潤っていく村を目指していきたいと思っています。また事業体からの地域還元については、各事業体の方々が善意で利益を地域還元し、潤滑なコミュニティの構築に携わっていただける社会を実現できればとの理想を持っております。皆様のご尽力を頂ければありがたいと思います。（成原村長）

議員のひと言 「秋祭り 提灯揺れて 夜の風」

豪雨災害や土砂災害に 対する対応について

大田 忠広 議員



Q

日本では昨今の異常気象により全国各地で豪雨災害や土砂災害が発生しています。9月8日に名古屋市では1時間に100ミリを超える猛烈な雨が降り、各地の道路が冠水。公共交通機関にも大きな影響が出て、帰宅困難者も出ております。幸い白川村ではこのような災害は出しておらず、安堵しているところだと思いますが、今後どのような豪雨土砂災害が起きるかわからないと不安は残ります。万が一避難所生活をしなければならないような大規模災害が起きた場合、白川村が出来る対応、対策について教えてください。

災害時には、社会福祉協議会が活躍していると聞きます。白川村は現在どのような連携体制になっているのかお聞かせください。

又、インバウンドの方々が多く訪れている白川郷ですが、日本人、外国人旅行者に対する避難誘導など、しっかりとした体制づくりも重要であると考えます。「やさしい日本語」による災害や医療・健康など生活全般に関わる事を伝えるマニュアルの作成を行っている自治体もあるようですが、外国人観光客の多い白川村では今後このような対応を考えているのかお聞かせください。

A

村といたしましては、「白川村地域防災計画」に基づき、迅速かつ的確に対策本部を設置し、住民の生命と財産を守るための各種応急対策を実施してまいります。こうした計画を実効性のあるものとするため、毎年10月に住民皆様を対象とした避難訓練を実施しています。特に本年、5年に1度の全村を対象とした総合防災訓練の実施を予定しています。

(成原総務課長)



A

村民課と社会福祉協議会では、災害時にボランティアを円滑に受入れ、必要な支援につなげられるよう、毎年、災害ボランティア受入の合同訓練を行ない災害ボランティアセンターの立ち上げ、受付、被災者ニーズ把握、活動先調整など、実際の災害を想定した手順と役割を確認しています。

(吉貫村民課長)

A

インバウンド対策としては災害時は公民館等が住民の避難所となることから「ひとり残さず村外へ退避させる取り組み」を主眼として進めていくしかないと考えております。また、「やさしい日本語」は外国人が多く居住している市町において多文化共生を目的に作れており、日本語が全くわからない外国人には向いていなく、母国語を話すことが主体となっていくと思います。

(古田観光振興課長)



議員のひと言 「安全な村である為に。」

ネットリテラシー教育について

宮部 俊典 議員



Q

高山警察署から「闇バイト」の増加に伴い、若者の社会的孤独感やモラル低下、犯罪抑止力不足が深刻化していると聞きます。インターネット等で「高収入・高額ホワイト案件」の募集により、一般人を特殊詐欺、広域強盗等の犯罪者に仕立てあげ、応募時に身分を明確化し、犯罪に手を染め組織から抜け出せなくする事案が治安の悪化の要因とされています。そのための対策として、高山市の中学・高校の学校教育に「ネットリテラシー教育」を取り入れていると聞きました。白川郷学園では実施されていますか？

A

白川郷学園では「デジタルシティズンシップ教育」を位置づけており、その中にネットリテラシーの内容も含まれています。子供たちがデジタル社会の一員として、ICTを安全かつ責任を持ってより良く使う力を育む教育です。年間指導計画では、発達段階に合わせて各学年2時間の授業を設定し、文部科学省の動画教材等を活用して「その情報は本当なのか」「ニセ・誤情報に騙されないために」など実社会とつながる内容を学んでいます。また、村の青少年育成推進委員会からは、警察庁作成の「闇バイトで人生を棒に振らないために知っておくべき5つのこと」を生徒に配布し、家庭でも話題にしてもらう取り組みを行っています。



(新谷教育委員会事務局長)

防犯に対する強い意識について

Q

近年、犯罪組織「匿名・流動型犯罪グループ（トクリュウ）」の存在が社会問題となっています。本年7月初旬から島区において不審者の深夜徘徊が頻繁に起こり、区として警察への相談や防犯カメラ画像の提出を行い、自主的にカメラやセンサーライトを設置するなど防犯強化を進めました。高山警察署生活安全課との懇談では、県警でも警戒を強化しており、5月までに不審者の通報が103件あったこと、今後は治安が良いとされる山間部や田舎もターゲットになり得るとのことでした。平和な白川村でも事案が発生する可能性を理解し、防犯意識を強く持つことで犯罪を未然に防ぐ村となるよう、村民への啓発を今まで以上に強化してほしい。

A

島区で発生した不審者徘徊に対し、地域の皆様が自主的に防犯機器設置や警察への連絡・警戒活動等を迅速にご対応いただいたことに敬意と感謝を申し上げます。不審者情報は駐在所および島区長から報告を受け、直ちに同報無線で注意喚起と情報共有を図ったところでした。全国的に強盗や不法侵入等の悪質犯罪が増加し、県内でも下見等の情報があることから、強い危機感を持っています。現代の防犯対策は「自らの地域や身の回りは自ら守る」自主防犯・防衛が基本となるため、必要に応じ迅速かつ適切な啓発活動を行っています。なお、自主防犯の後押しとして、防犯カメラ設置費用の一部を補助する制度を来年度新設する計画を進めています。身近な「人の繋がり」や「地域の目」を最大の抑止力とし、関係機関・各地区・住民の皆様と密に連携して安心して暮らせる村づくりに努めてまいります。

(成原総務課長)

議員の一言 「村民の力で犯罪に遭わない村づくり」



わたしたちの学園自慢!!

第2回

前回に引き続き学園の9年生の皆さんの「学園自慢」をご紹介します。今回は3名の生徒さんで次号が最終となりますのでよろしくお願いします。

ぼくが自慢したいのは、なんといっても「LP活動」。LP活動は、リーダープロジェクトの頭文字をとってLP。各クラスがリーダーとなって学園を動かしていく活動。LPで学園をよくしたり、動かし続けていくことは楽しいし、リーダーとしての力もつくからいい活動だと思う。もう一つはあいさつ。朝、登校したら先生たちの「おはよう!」という明るいあいさつで迎えてくれる。教室についたら多くの生徒があいさつをして教室を回ってくれるから毎日朝から元気がでる。

成原 礼生さん

1. 小中一貫校であること
他の学校とちがって小学生と関わることができるから年の差がある子たちと遊んだり、話したりすることができます。また、自分たちにはない小学生の発想や考えを聞けるからすごく楽しい生活ができます。
2. 結クラス
学校の中で1年生から9年生と一緒に過ごす機会があります。また結クラスweekという一週間その仲間と生活することもあります。

宮部 奏大さん



1. 特定の誰かではなく全員の仲が良いところ
クラス内や近所の子ではなく、クラス外、別の地区の子と仲が良いのは学園だからこそ。
2. 結クラス
1で書いた仲の良さは結クラスからきていると思います。1~9年生の縦割り班は上級生も下級生も関わりやすい関係をつくる手助けをしていると思います。
3. やりたいことはとことん応援
先生も生徒（仲間）も1人の為に一生懸命やりたいことに挑戦する勇気をくれます。

山腰 陽愛さん

9年生修学旅行



白川村議会出張意見交換会の募集

～これからの白川村を一緒に考えましょう～

村民皆様の思いを村政に反映させるため、「白川村議会出張意見交換会」を開催します。皆様が日頃お困りの課題や白川村の未来への思いを白川村議会と考えませんか？村民の任意グループ、団体、保護者の集い、趣味の会、自治会、青年会、女性会など各種団体からお申し込みいただければ議会が出向いてお話を伺います。

村の未来のために、
たくさんのご応募を
お待ちしております!!

申込方法

開催希望日の1月前に白川村議会事務局（6-1311）までお電話ください。

お申し込みに留意いただきたいこと

村に対する単なる要望や苦情ではなく、建設的な意見交換の場となるようお申し込み時に意見交換のテーマ（人手不足、移住定住促進、観光振興、教育問題、6次産業化等）をお伺いします。

議会傍聴案内

議会定例会（3月・6月・9月・12月）や、臨時議会は傍聴することができます。定例議会の開会時間は、4月から11月が午前9時、12月から3月が午前10時からです。傍聴される方は、開会時間15分前までに総務課までお申し出ください。

次回、12月議会定例会の議事日程運営は、12月上旬に白川村議会ホームページで確認することができます。また、一般質問通告の題目についても掲載しています。ご確認の上、ぜひ村づくりの議論を傍聴くださいますようお願いいたします。

白川村議会ホームページは
こちらからご覧いただけます。



編集後記

朝夕の風に実りの秋の訪れを感じます。村のこれからのについても議会では実りある議論を重ねていきたいと思っています。そして、皆さまの声が村の未来を考える大切な力になります。朝晩が冷え込むようになりました。皆さま、どうぞお健やかに過ごしてくださいませ。

平田 律代